

俳句

大津俳句会

春の鴨旅の支度に余念なく

井芹眞一郎

霜しも霰しずく日ひざしの音のしてきたる

秋山 恵子

初雀ついは啄むものもなき庭に

市原 初女

庭仕事後の楽しみ小豆粥あずきがゆ

大塚喜久子

一時の幸せもらふ日向ぼこ

佐賀 久子

岩礁の潮間をぬうて石蓴あおさ搔く

松尾 昭雅

一声に確かめてゐる笹子かな

岡崎 浩子

耐え耐えの蕾のままに冬薔薇ふゆそうび

森山美穂子

俳句

つのはな句会

不要不急の外出しない去年今年

田上 公代

牛飾べこり無為のてのひら年迎ふ

木庭 杏子

クレヨンの記憶ふわりと冬晴るる

上杉 波

紙の鶴初春の空飛びたがる

矢嶋 道子

柁ひいらぎの刺繡 曾孫のベッドカバー

水野 春子

北風に立ち向かわんと すずめ飛ぶ

梅木トキエ

冬うらら おしやべりライン続いてる

塚本 洋子

アクリル板透けて令和の注連飾

榮田シノブ

破魔矢もて人類襲うウイルス射ん

志賀 孝子

短歌

大津短歌会

夕闇の仄かに揺るる竹あかり冷氣増すごと光を放つ

鞍 岳志

山茶花の散り敷く庭に餌あさる鳩の二羽にも幸多くあれ

坂本 杲子

大阿蘇の稜線静もる晩秋の野に白百合の暮れ残る

吉永 恵子

マジックでメモ並べたるカレンダー残り一枚コロナで自粛

管野 静

夕暮れの空に見とれて秋深し友の狂句口遊びおり

豊岡ミツル

まっ白のシャツの背に風朶ませてペタル踏みゆく少年の夏

渡邊佐代子

一夜さをくまなく照す満月は川面に映りて地中也照す

小平 善行